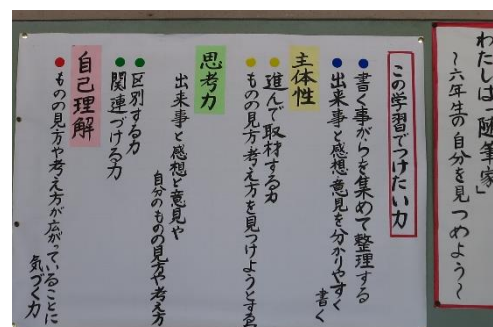


5月18日全体授業研究

今年度第1回の研究授業を行いました。新たな試みとして、評価基準（ループリック）の共有を行っています。この評価基準は、児童の学習到達状況の評価するためのものになります。この評価基準のよさは、児童と共有することです。授業は教師がつくるのではなく、児童と教師が協働して作り上げていく作品のようなものであるという思いで授業をつくっています。評価基準を共に作っていくことが、より児童が主体的に授業へ参加するための手立てでもあります。評価基準をつくる場面は大きく2つあります。

1つは、単元導入時である「課題の設定」の場面です。今回の単元では、2時間目に当たります。課題の設定が終わった後、児童とともに学習計画を立て、学習の見通しをもたせます。中学年以上は、「課題発見・解決学習」の過程を意識させてください。学習計画を立てた後、この単元でどんな力を付けていくことができるか、教科の力と育成したい資質・能力について考えさせます。慣れるまでは、教師が中心になっていくと思いますが、児童の言葉や思いも入れてB基準を作成します。まずは、全員がB基準を目指していくことが大切です。そして、さらにA基準だったら…とB基準同様に考えていきます。それらの力は、単元計画のどの場面で力を付けられるかも考えさせます。このようにして、児童自身に学びを自覚させることを行います。この活動が、学びのドリームプランの「学びのモニタリングの視点」を児童と共有することになります。全員で付けたい力なども共有を図りたかったので、今回は教室掲示という形で共有をしました。課題の設定時に行った評価基準をもとに、学びのモニタリングを単元終了時に行います。学びのモニタリングについては、実践を行った後に、また情報提供します。

もう1つは、1時間の授業の中で評価基準を児童とともに共有を行う場面です。ここについては、研究授業の時に一例を提案させていただきました。評価基準を共有することで、目標に到達するために懸命に努力をすることができます。そして、授業後、評価基準に照らして自分は何ができて、何ができていないかを振り返り、次の時間のめあてをもちます。この営みが、主体的な学習者を形成するためにとっても大切になります。



この学習で付けたい力（教室掲示）

評価基準作成のポイント

- ①各段階における児童の状態をより具体的に表記し、誰が見ても判定が一致するようにする。
- ②教師と児童が共有する。
- ③評価基準の作成に、児童も何らかの形で関わる。
- ④達成状況を示す具体的なようすを児童の立場に立った記述にする。

まだまだ、実践を始めたばかりですが、児童たち自身は、今の立ち位置を自覚し、より高い次元へ自分を高めようとする姿や主体的な授業づくりにつながっていくと信じています。私自身評価基準をつくること自体に慣れない中で日々の実践を積み重ねている段階です。児童が見ても、教師が見ても、客観的でしかも一貫性のある評価基準をつくっていくことをめざしていきましょう。今回の授業を参考にしながら、学年の発達段階に応じて、先生方のアイデアを入れながら、実践を積み重ねていきましょう。



協議会より

成果

- ・児童主体の授業になっていた。(思考ツールの選択、めあての設定)
- ・ゴールの共有ができていた。(単元全体、1時間の授業の中で)

課題

- ・意見、感想とものの見方・考え方との違いがはっきりと区別できていないために、児童は混乱したのではないか。
- ・自分のものの見方・考え方を導き出すことは難しいのではないか。

改善案

- ・ものの見方・考え方をどのように導き出せばよいか、全体でピラミッドチャートを使いながらやってみると良い。

黒上晴夫先生 ご講演より

シンキングツール／思考ツールとは

- ・考えを可視化するもの
- ・考え方を図形が導く
- ・考えたことは言語活動として
- ・グループでの話し合いが活性化する
- ・人の考えも自分の中に取り入れられる

シンキングツールはワークシートではない

- ・途中の考えを表す
- ・ツールを元に考える
- ・正解はない
- ・同じツールを何度も使う

